

『あたりまえの日常』が大きく揺らいだ私達に3.11から三度目の春が訪れます。復興が進んでいるといわれる中、自然と共存し、野生を内蔵した私達は周囲に対して優しすぎるあまりに、様々な想いや、自分の核となる本質に向き合う時間をとることも難しくなっているのではないのでしょうか？

本企画「自分再発見」ワークショップは、スロームーブメント\*などを通して、私たち自身の“からだ”に気づき、その“からだ”を通して再び自分自身と、自分を包んでいる世界との関係を見つめ直します。共に、その体験を通して、私らしく生きることを思い出してみませんか？

\*小物を拾い上げ再び戻すといった動作を日常の1/100以上のゆっくりとしたスピードで行ったり、非常にゆっくりと歩くなど。



## 講師：小池博史氏

演出家・作家  
舞台芸術の学校(P. A. I.)学長  
元パパ・タラフマラ芸術監督

1982年パフォーミングアーツグループ『パパ・タラフマラ』を設立。  
以降、全55作品の作・演出・振付を手掛ける。  
劇・ダンス・美術・音楽などのジャンルを超えた作品群は、  
35ヶ国以上で上演され、国際的に高い評価を確立。

2011年の3月11日をきっかけに30年間続けた『パパ・タラフマラ』を解散、  
2012年6月「小池博史ブリッジプロジェクト」を立ち上げる。

新組織として初めて生み出した作品『注文の多い料理店』は、  
人間と自然の関係を問い直し、  
人としての源泉を、全感覚を通して探求し、  
私たち自身の存在の在り方への疑問を提示する作品になっている。

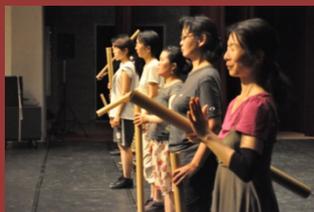
「今、人間にとって必要なのは胸を張れる輝かしさです。  
人としての源泉を、全感覚を通して探求することで、  
初めて次が見えてきます。  
その源泉を問うのが、悲しく、怖く、楽しく、可笑しい  
『注文の多い料理店』なのです。」

～『注文の多い料理店』公演パンフレット小池博史コメントより抜粋～



### ～小池博史氏より南相馬の皆さんへ～

短いワークショップですので、今回は自己発見の入口だと思ってください。このワークショップでは自分自身の記憶や感性と向き合うことになります。ですから、被災地の皆さんにとって辛い記憶が甦るかも知れません。しかし人は記憶からは逃れられず、それを通して隠されてしまった美しさが甦ることも起きてきます。ぜひ、自身に向き合ってみてください。



### ■NPO法人コミュニティー・コーディネーターズ・タンク (CoCoT)

NPO法人CoCoTは、地域に住む人々が、自己決定力と課題解決能力をもち、市民自治を実現する社会を目指して、その仕組みづくりと人材育成に取り組んでいます。震災直後から、千葉県松戸市内への避難者支援を行ってきました。現在、震災・原発事故に、『向き合い、つながり、共に歩む』県外支援者ネットワーク構築に取り組み、県外支援者と被災地をつなぐ窓口として、いわき市に復興支援センターを運営しています。2012年8月からは、復興支援活動の一環として、いわき市と松戸市で、円居の場プロジェクトに取り組んでいます。

### ■チーム・コオラク

本ワークショップを企画している「チーム・コオラク」は、南相馬出身のメンバーを含む5名のメンバーがいます。チームのメンバーは、NPO法人CoCoTが、ホットスポットでもある千葉北西部にあって、震災・原発事故がもたらした課題に向き合っているという趣旨で開催した円居の場で出会いました。チームメンバーが震災後に体験した小池博史のワークショップは、人が胸を張れる輝かしさを取り戻すきっかけを与えてくれました。このようなワークショップを南相馬市で共に体験したいと思い、企画を進めています。